

2022年度 第3回課題研究

対象者	J1(2022 年 3 月期)及び希望者向け
テーマ	
<p>ヤマトホールディングス株式会社(以下ヤマトホールディングス)及び、SG ホールディングス株式会社(以下 SG ホールディングス)の有価証券報告書を基礎として、以下について記述しなさい。</p> <p>なお、本課題研究を記述する前に、実務補習所が配信する eラーニング講義「経営 201 経営分析総論」を視聴することを推奨する。</p> <p>1.</p> <p>ヤマトホールディングス及び、SG ホールディングスの 2022 年 3 月期の連結財務諸表に関する以下の財務分析指標について、計算式及び計算結果を答えなさい。</p> <p>なお、計算に当たっては、次の指示に従うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 全て、連結ベースの数値を用いる。➤ 計算結果は、百万円表示(率の場合は%表示)。➤ 率の計算上、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで答える。➤ 貸借対照表項目と損益計算書項目を対比する計算式の場合には、貸借対照表項目は期首・期末の平均値を用いて計算する。➤ 従業員数は、期末数値を用い、パートナー社員等臨時雇用者の平均人数は含めないものとする。➤ 減価償却費、のれん償却費は連結キャッシュ・フロー計算書を用いること。 <p>① 営業収益営業総利益率 ② 総資産営業利益率 ③ 従業員一人当たり営業収益 ④ 設備生産性 ⑤ EBITDA (営業利益+減価償却費+のれん償却額)</p> <p>2.</p> <p>1.の財務分析指標に差が生じている理由について、両社のビジネスモデルの違いに言及しつつ説明しなさい。 【1,000 字以上】</p> <p>3.</p> <p>SG ホールディングスの 2021 年 3 月期及び、2022 年 3 月期のセグメント別の比較分析を実施しなさい。 【1,000 字以上かつ 1,500 字以内】</p>	

4.

2023年3月期第3四半期現在のヤマトホールディングスにおいて、営業収益が増加している一方で営業利益が減少している増収減益の状況が続いている。利益構造改善のために、どのような施策・戦略が考えられるか。上述の問2.3.の自身の回答を踏まえ、答えなさい。なお、ヤマトホールディングスの第4四半期の情報については言及する必要はない。

【1,000字以上】

以上

必要字数	計 3,200 字 ~ 4,000 字
提出期限	2023年6月13日（火）23:59 必着
提出形態	Word ファイル形式で提出する事